平和作りのメッセージ

いちばん星5周年おめでとうございます。

戦後 60 余年、現行憲法は、毎日の安全な生活と平和を求める人々を力づけてくれました。

しかし、社会の情勢はいつも危険をはらんでいます。そのことを痛感しましたのは、市民の立場に立たず、好き勝手なことをしている橋下知事が 80%以上の府民が支持をしているということです。ここにマスコミの恐ろしさと、それに操作される人間の危険な面を感じています。戦争支持の狂気の世界は、一夜でも作られる危険を内包しています。

物事の判断は、具体的にそれで誰が得をするのか損をするのか、誰が危険な目に遭うのかということだと思います。視点は、権力者や強者が市民や弱者を操っている真相を見極めることです。

いつも個人の尊重の原点から闇を照らすいちばん星として頑張って下さい。

平成 22 年 2 月　9の日パレード市民の会 責任者

弁護士　辻　公雄

お知らせ

憲法記念日にみんなで歩こう！

第５回 市民パレード IN とよなか

2010 年 5 月 3 日（月・祝）午前 11 時～12 時頃

コース： 豊中市役所前広場集合（阪急岡町駅から徒歩約 5 分）
→国道 176 号線に沿って 豊中駅前までパレード

今年も同じ時間に同じルートで歩きます。風船を手に、歌を歌いながら、みんなで楽しく歩きましょう。

主催：市民パレード IN とよなか実行委員会

いちばん星結成５周年記念メッセージ集

Messages for PEACE

2005 年 2 月 4 日、豊中駅前「すてっぷ」の会議室に 15 人の女性が集まりました。互いに見知らぬ顔もチラホラ。ふだんは高齢者福祉、子育て、国際交流など、地域でそれぞれ別々の市民活動をしている 15 人の思いは一つ。「私たちが自由に活動できるのは、いま日本が戦争をしていないから。子どもたちに平和な日本を手渡すため、『9 条を守ろう！』の声を一緒に上げましょう！」
そしてその場で、「九条の会・豊中いちばん星」が生まれました。

あれから 5 年間。講演会や学習会を開催したり、ピースパレードをしたり、イベントに出展したり・・・　資金集めに苦労しながらも、地域の仲間とともに走り続けてきました。でも、私たちの活動でどれだけ世の中を変えることができたのか、なかなか実感することができません。日本の「平和力」は少しはアップしたのでしょうか？
いま、ちょっと立ち止まって、振り返ってみる必要がありそうです。

結成 5 周年にあたり、これまで講師をお引き受けいただくなどご縁のあった皆様から、貴重なメッセージをいただきました。それぞれ専門分野で平和のためにご尽力されている方々です。

これから先の 5 年間、いちばん星も皆さんと手をとりあって進んでいきたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

2010 年 3 月　九条の会・豊中いちばん星

「九条の会・豊中いちばん星」アピール

戦後60年がたちました。この長い年月の間、日本は戦争をしていません。一度も国家の名において人を殺していないのです。「憲法九条」が許さなかったのです。
一方において自衛隊があります。世界でも5本の指に入る軍事力を持っています。PKO 法のもと世界中に派遣され「国際貢献」もしています。迎撃ミサイルの開発も進めている自衛隊、できないのは「戦争をしかけること」と核武装だけです。

今、憲法を変えて何をしようというのですか。
戦争ができる「普通の国」にしようということでしょうか。
「国際貢献」の名の下に血を流せというのでしょうか。
「軍隊」に入る義務を国民に課そうというのでしょうか。
それとも核武装？
私たちは、憲法九条を変える必要があるとは思いません。むしろその存在はますます重要になってきています。

戦争・貧困・人権侵害・環境破壊は相互に関連し、世界に大きな問題をもたらし、地球の破滅をも予告しています。21 世紀が人類にとって、最後の世紀になるのか、新しい歴史の転換点になるのか、究極の選択のときを迎えています。平和なくして人類は存続できません。今こそ日本は「平和憲法」を高く掲げて、国際社会でリーダーシップを発揮すべきではないでしょうか。
しかし「改憲」の叫びが国会でも多数を占めつつあります。今、私たち市民が声を上げなければ憲法九条は死んでしまう。その思いから私たちはここ豊中で、「九条の会・豊中いちばん星」を立ち上げることにしました。

２００５年２月４日　結成

豊中いちばん星」結成5周年おめでとうございます。

思えば、私が「豊中いちばん星」結成の記念講演に招待された5年前は、イラク戦争に反対して外務省を解雇された直後の私にとっても、人生の大きな転機でした。以来今日まで私は、草の根平和活動を続ける多くの善良なひとたちの仲間に入って戦争のない世の中を訴えてきました。その意味で私の第二の人生は「豊中いちばん星」とともに歩んできたといえます。

平和は、平和を願う強い気持ちと、それを実現させようとする不断の努力が必要です。それは決して楽な事ではありませんが、第二の人生を賭けて悔いのない崇高な活動だと思うようになりました。
これも「豊中いちばん星」の皆様と出会えたからだと思っています。

ありがとう。そしてこれからも平和のためにともに頑張りましょう。

元駐レバノン特命全権大使、作家　天木　直人

「九条の会・豊中いちばん星」結成 5 周年　おめでとうございます。

2004 年 6 月、大江健三郎さん等 9 人の知識人が「九条の会」を立ち上げたのに呼応して発足したみのお 9 条の会は、「九条の会・豊中いちばん星」のみなさんの、前向きで明るく華やか、パワー全開で活動される姿に終始励まされて参りました。

今、日本の政治は、政権交代をしたとはいえ、期待通りとはいかず迷走しています。不況、就職難、生命軽視など、若い世代が希望を持てない現状は、「戦争」という最大の暴力に豹変する温床となりかねません。「憲法改正」を声高に言うことは控えているとはいえ、好況への突破口を見出そうとする強大な勢力が、この温床を使うチャンスを虎視眈々と狙っていることを忘れてはなりません。

今こそ 9 条の会をはじめとする草の根平和団体、文化団体が連携を深め、平和憲法を守る鎖を数珠つなぎにしていかなければならない時だと思います。

憲法 9 条を世界に輝かせるために、これからも手を取り合い、知恵を出し合って参りましょう。

みのお九条の会　黒田　悠紀子

広がっていくこと、深まっていくこと

いちばん星が 5 周年を迎えられるのが、ちょうど改定日米安保 50 周年の年であり、また普天間基地をめぐる議論の最中であることは、運動の意義を考えるよい材料を与えてくれているのではないかと思います。

安保や基地をめぐっては、現実的には国防は必要でしょう、という議論がなされますが、「現実的」とは何なのでしょうか。今目の前にある世界は、誰の何の意思も反映せず天から降ってきたものなどではなく、力のある国ぐにの意思がその背景に働いており、同時にそうした意思の失敗をも反映しているわけです。つまり「現実」とは、私たち自身が作っていくものに他ならないわけです。その作業に加わることができる立場にありながら、無関心でいることは無責任でもあり、またその作業から多くの人びとが排除されている状況は、変えていかなくてはならないと思います。

平和への思いは、それだけが孤立して存在するわけではなく、私たちの生き方そのものとつながっているのではないでしょうか。政権が代わって、外国人参政権が現実味を帯びてくると、途端に外国人に参政権を与えたら大変なことになる、という議論が活発化する日本。自分たちの平穏のためならば、「自分たち」とは見なさない人びとの権利は奪ってもしかたがないという議論がまかり通る日本。そうした私たちの生き方の延長線上には、軍事力を振りかざさない平和な世界は生まれては来ません。

その意味で、いちばん星の運動が、他の分野での目標を掲げた運動とつながって、広がっていくことはとても大切なことだと思います。と同時に、意見が対立するような難しい問題は避けて、和気あいあいと輪を広げていたのでは、運動は深まっていかないというジレンマもあると思います。政治は集合的なものですから、一人だけが一所懸命に走っていても、周りの誰もついてきてくれていないのでは、どうしようもありません。いちばん星の主張に耳を傾けてもらい、より多くのみなさんに議論の輪に入ってもらえなくてはいけませんが、みんなで一緒に進んでいるけど、どこに向かっているかを見失ってしまってもいけない。これは、市民の運動が常に抱える課題なのかもしれません。

豊中に根をおろしたいちばん星が、次の 5 年間に何を目標としていくのか。これからも、一緒に活動させていただければと思います。

関西大学　大津留（北川）智恵子

結成5周年に祝意を述べたく、同時に心からの敬意をも表したく存じます。

いちばん星は宵の明星たる金星すなわちヴィーナス Venus を指し、ローマ神話における愛と美の女神からの命名として、たおやかながらもしっかりとした輝く女性集団の名に相応しい、と当初の活動にかかわらせていただいた私は感心をしました。が、この5年間の活躍をみるにつけ、その内実は感心を超えて驚嘆に値すると思ってもおります。

大江健三郎氏が、憲法9条は「萃点スイテン」すなわち　秀でた選り抜きの集約ポイントだと書いておられますが、いちばん星もまた9条の意義を体現する正真正銘のヴィーナス集団として、輝き続けられるに違いない、そう私は確信しています。

関西大学法学部　吉田　栄司

九条の会・豊中いちばん星のみなさんへ

結成 5 周年、おめでとうございます。5 年前の 05 年はイラク戦争が激化するときで、ファルージャやラマーディなど、主としてスンニ派地域で、米軍は容赦なき空爆を繰り返しておりました。当時から「戦争の民営化」が進み、具体的な作戦の中にもブラックウォーター社やアーマーグループ社などの「傭兵たち」が、戦争に参加するようになりました。ハートセキュリティー社の、日本人の斉藤さんがイラクで殺されたのもこの頃でした。

05 年 11 月にバグダッド空港に行きましたが、空港を警備しているのは、ネパール人とフィジー人でした。ちなみに 09 年にアフガン・カブールで、カナダ＆日本大使館を警備していたのは、アーマーグループ・北アメリカ社です。

そう、「戦争は儲かる」のです。

「武器と石油の取引」。これが戦争の本質で、「テロリストがいるから」というのは、おそらく戦争をするための口実です。

いちばん星のみなさんは、精力的に学習会などを開いて、そうした本質に近づいてこられたと思います。今後もみなさんの平和運動が進展することを祈念しております。

イラクの子どもを救う会　西谷　文和

「いちばん星」結成 5 周年おめでとうございます。

昨年夏に開催した「アン・ライトさん vs.天木直人さん対談の集い」では大変お世話になりました。

アン・ライトさんには、一昨年の「9 条世界会議・関西」、昨年の「集い」と二年つづいて来阪していただき、憲法 9 条を愛し、平和と正義を求めて大阪各地で活動している大勢の人たちに会い交流を深めてもらうことができました。皆さんのご支援のお陰で、アン・ライトさんはすっかり大阪のファンになっておられます。

対談の中で言っておられた『ガザ・フリーダム・マーチ』が昨年末年始にかけて行われ、私たちコードピンク大阪も参加してまいりました。世界 40 カ国から 1400 名もの人たちがカイロに集まってくる中で、全員がガザに入れるよう粘り強くエジプト政府と交渉を続けてくれたアン・ライトさん。まさに「平和の外交官」の面目躍如でした。

最終的にはガザに入ることは出来ませんでしたが、40 カ国から集まってきた人たちに『憲法 9 条を持つ日本の草の根のグループ』として思いを伝え、「ガザの包囲は国際法違反、直ちに解除しなさい」と心を一つに声を上げることが出来ました。貴重な経験でした。

大阪の私たちは、湾岸戦争、イラク戦争をとおしての中東情勢にはかなり関心が高くても、パレスチナ問題となるとまだまだ関心が低いのが現状ではないでしょうか。ガザに入れなかった私たちは急遽、イスラエルに向かい、西岸地域のパレスチナ暫定自治区を訪問。パレスチナの人々の暮らしと抵抗、闘いに触れることが出来ました。この体験を大阪の皆さんに伝え共有してもらうことが今年のコードピンクの課題です。アン・ライトさんから託されたメッセージでもあります。私たちの見てきたパレスチナの話を聞こうと思ってくださる皆さん、是非コードーピンク大阪にお声をおかけください。

「いちばん星」のますますのご活躍を祈念いたします。今年もお世話になります。

コードピンク大阪ジャパン　尾川　寿江

「九条の会・豊中いちばん星」5周年、おめでとうございます。

「阪大・9条の会」は、結成こそ「豊中いちばん星」よりわずかに先輩ですが、みなさんの地道で熱心な取り組みをもっと見習わなければ、と常々思っております。

私にとって忘れられないのは、天木直人さんを招いての「豊中いちばん星」結成記念講演会を訪れ、みなさんの平和への熱い思いと溢れる女性パワーに圧倒されたことです。以来、アレン・ネルソンさん＆高遠菜穂子さん講演会、小森陽一さん講演会、澤地久枝さん講演会、最近の堤未果さん講演会等々、「阪大・9条の会」は、「豊中いちばん星」を初めとする市民の皆さんのイニシアティヴに後ろからついて行って、もっぱら場所や機材を提供する役回りに甘んじている状態ですね。反省しています．．．

私が思うに、現在日本も世界も、戦争文化と平和文化とがせめぎあう重大な岐路に立っています。米国大統領がオバマ氏に代わり、昨年4月5日のプラハ演説以降、世界中で核廃絶に向けたうねりが起こっています。日本でも、「日米同盟」一辺倒で、新自由主義の矛盾に対する不満をナショナリズムで回収しようとする自民・公明政権が倒れ、東アジアとの協調を掲げる新しい政権が生まれました。

しかし他方で、米国も日本も巨額の軍事費支出に象徴されるように（米国は史上初めて軍事費が 7000 億ドルを超え、日本も4兆 7903 億円への 0.3%増額に加え、米軍への「思いやり予算」と「米軍再編」経費に史上最高の 3270 億円が振り向けられます）、戦争文化・戦争利権に固執する勢力は、必死に巻き返しを図っています。そして、彼らが目の敵にしている日本国憲法をめぐっては、今年5月 18 日、改憲手続き法が施行予定であるのを前に、新憲法制定議員同盟（会長・中曽根康弘元首相）など改憲（というより壊憲）勢力が、活動を再び活発化させています。

第9条の「平和憲法」は、ゲルニカ・重慶に始まり、東京や大阪を経て、広島・長崎への原爆投下で究極の形をとった無差別大量殺戮を体験した人類の、「もはや戦争はあり得ない、あってはならない」という認識の表明であり、21 世紀人類社会が進むべき方向を指し示した結晶です。

一部の人間が暴力で主義主張や利害を貫く戦争文化か、地球社会全体が暴力を用いずにさまざまな問題を解決しようとする平和文化か――、この歴史的な時期にあって、「豊中いちばん星」のみなさんのパワーが、ますます光り輝くことを願っております。

「阪大・9条の会」事務局長　木戸衛一